

みんなで昔話を語ろうよ

使用教材：「雪女」（五年）

昭和女子大学附属昭和小学校 教諭
工藤 豪

1 はじめに

■昔話に親しみをもたせるために

児童が、昔話についてどのくらい知っているのかを調べてみた。「桃太郎」を知っている児童は100%、「浦島太郎」は90%、「金太郎」は65%、「鶴の恩返し」「かちかち山」「花咲か爺」「こぶとり爺」などは20%だった。加えて、いくつかの昔話を混同していたり、話の結末を曖昧にしか覚えていなかったりする児童が数多くいた。

本単元では、昔話を聞いて場面を想像することで、昔話に親しみをもたせたいと考え、教師が聞き手の目を見て話す「語り聞かせ」の手法を取り入れることにした。語り聞かせの魅力は、言葉を通して、語り手と聞き手の心の通い合いができることにある。この魅力を最大限に生かし、聞いて想像する楽しさや大切さを伝えたいと考えた。

■年間を通した本学級の取り組み

本学級では、「私のお話」という記録ノートに自分の作った話を書く活動を、年間の

童の想像が広がるように工夫した。

【用意した台本の冒頭部分】

昔、白馬岳という険しい山の麓に、茂作、箕吉という、親子の獵師が住んでおった。

木々の色も鮮やかになった秋の日のこと、茂作と箕吉は、連れ立って山へ獵に出かけた。

「しっかし箕吉、今日は全く獲物が捕れねえなあ」

「おっとさま、こつちだ、こつちだ、獲物だ。次は逃さねえ」

焦って獣を追ううちに、ずつんと山深く入り込んでしまった。

（傍線は台本のために加えた部分）

(2) イメージを文章と絵で整理する

語り聞かせを聞く前に、雪女について想像することで、昔話「雪女」への期待感が生まれ、児童をより物語に引き込むことができる。頭の中に、紙芝居のように絵を思い浮かべながら聞くとよいことを助言してから、語り聞かせを行った。児童が想像した雪女のイメージの変化から、語り聞かせを聞き、雪女の優しさや人間らしいところが、雪女が増えたことが分かる。

昔話を
聞いて
楽しむ

2 指導計画（全三時間）

第一時 想像しながら聞く

①雪女という言葉から想像する人物像を、文章と絵で表現する。

②「雪女」の語り聞かせを聞く。

③語り聞かせを聞いた後、教科書P162・163の絵を見て、雪女について想像したことを、文章と絵で表現する。

第二時 「雪女」から想像を膨らませて話を作る

【児童が想像した雪女のイメージ】

▼語り聞かせを聞く前

・とても美人だけど、襲うときの顔はものすごく怖い。

・雪のように心が冷たい人で、背が高くて細く、くやせ細っている。

・絶対に笑顔を見せず、口から冷たい息を吐く。

▼語り聞かせを聞いた後

・怖いけど、優しいところもある。

・最後に助けてくれるということ、そこまで悪い人ではない。

第三時 「雪女」から想像を膨らませて話を作る

「雪女」の世界をより豊かに想像させるための手立てとして、自分が作った話を書く活動を取り入れた。語り聞かせで聞いた「雪女」の話から想像を膨らませ、この話の前後にどんなことが起こりそうか思い浮かべたり、話の中の出来事をより詳しく思い浮かべたりして、作った話をノートに書かせる。

日常の活動により、児童は、このような創作を書くことに慣れ親しんでいる。教

3 指導の実際

第一時（想像しながら聞く）

(1) 語り聞かせにあたって

本来、語り聞かせは、語り手が覚えた話を自分の言葉で語っていくものだが、本単元では、聞き手が想像しやすいように、大きな場面ごとに文章を考えて台本を用意し、それをもとに語ることにした。より躍動感が増すように、山の雰囲気、人物の息づかいなどに関わる表現を加えた。

問や話す速さは、聞き手の反応を見ながら変えていく。余韻を残したいところは、ひと呼吸おいて語る、緊迫感を出したいところでは少し速く語るといったように、児童

①話を作るための場面設定をする。

②イメージをまとめ、話を書く。

③早く書けた児童の話をもみんなで聞く。

第三時 昔話を読み広げる

①「雪女」をきっかけに、興味のある昔話を読んで、感想を書く。

師からは、初めに季節や場所、出来事などの設定を考え、文章の長さを決めた後に書き始めるよう指示した。

児童の作った話には、箕吉のその後・雪女誕生の秘密・雪女の子どもの成長に関わる話などがあつたが、雪女の人間性を感じて内容のものが多かった。

【児童の作例（一部）（「箕吉のその後」）

ある雪の降る夜のこと、箕吉は子どもたちを寝かせ、うとうとしていた。扉の隙間から冷たい風が吹いたかと思うと、目の前にあの雪女が立っていた。箕吉は突然のことでも動かずに、声も出さず、雪女は子どもたちと風のように消えてしまった。次の日、箕吉は必死で子どもたちを探した。

4 おわりに

昔話の語り聞かせ・読み聞かせをするときには、昔話の中にある「人間のあるべき姿」を伝えたい。昔話を通して、生きていくうえでの考え方を知ることができれば、児童にとって、将来への大きな財産となることだろう。